

○大災害に立ち向かう強い日本を 目指して

未曾有の大災害。犠牲になられた皆さん、かろうじて命を救われ、厳しい寒さの中で避難生活をされている皆さんに、心からの哀悼と、励ましの気持ちを送りたいと思います。この悲劇に打ち勝っていくために必要なのは、あらゆる応援の手立てを国民全ての力を結集して実現することです。

三重県でも医師会が医療チームを派遣、トラック協会がタンクローリーや貨物トラックの提供をしたりと、民間事業団体の協力が進んでいます。援助物資の提供や募金に応じていただく市民の間にも、「何か出来ることがあれば、」と、支援の輪が広がり、私たちの国の底力を実感します。

警察、消防や自衛隊の活躍で人命救助、避難民の救済を中心に活動が進み、福島原発への対応も必死の努力が続いています。私たちの役割も、一つは、自衛隊からボランティアや民間企業、自治体などを中心に全国民が参加できる救済体制を作る仕組みづくり。同時に、これからの地域の復旧や復興計画を立てていける体制を組み立て、特別の法律を作って、補正予算確保と合わせて、復興の実を挙げる体制作り入っていきます。政府を応援するために、具体的な政策の骨子を民主党で作るチーム(大震災復旧復興特別立法チーム)が出来て、私が座長となって、政策を引っ張っています。

災害復興庁を政府に作ることに同時に災害県や自治体に復興計画を策定するための復興対策本部を設置する。地方自治体が自らの裁量で自由に使える一括交付金制度を作る。被災者が再び立ち上がるきっかけを作るために、支援金は一家の再建に最高300万円出ることになっていますが、これを必要なときに支出できることと、その増額を目指すことなどが大切だと思っています。他に、これまでとはとてつもなく折り重なった瓦礫の撤去をするために、地方自治体が費用の半分を負担していたのを、全て国の負担でやってしまうことでないと市町村がもたないという現実。市庁舎が流されて多くの職員が犠牲になった中で、全国が

ら応援を求めて市民生活と復興に向けての準備をしようとしている状況に応じていくこと等々、沢山の立法課題に取り組んでいきます。こうした課題を乗り切っていくためにも、国会の状況が改善していくことがぜひとも必要なのです。この際、大連立とか挙国一致内閣とかの構想の中で与党と野党が協力をしなければ、この難局は到底乗り切れないと感じています。どこかできっかけを作る、しかも、それを、出来る限り早くしないと間に合わないということです。

○知事選には松田直久氏が立候補

三重県の知事候補が決まりました。私達民主党は、松田直久前津市長を応援していくことを決めました。県下では、四日市市長や菰野町長が中心になって市町村長応援団「日本の原点」を立ち上げ、選挙の態勢を整えつつあります。松田さんの出身である三重県議会の会派「新政みえ」のメンバーも松田さんの応援を決めています。

三重県政は、16年前の北川県政誕生以来、様々な改革を全国に先駆けて実現してきました。出来ることから着実にたゆまざる改革を進めることが一番。革命的な改革は、組織を壊し、一過性で後には何も残しません。松田さんは、三重県のたゆまざる改革を元氣よく継承してくれる人材だと思います。

○新しい命と次の世代を大事に

被災地でも厳しい環境の中で赤ん坊が生まれ、周りに希望の灯をともしていると報道されています。私にも、大阪に嫁いだ娘から、初孫の写真が携帯に毎日届きます。孫は、かわいいものです。私の生まれた昭和25年当時は、年間250万人の赤ん坊が生まれました。それが去年は107万人。この子達が保育園、学校、就職して結婚、家を建てていく成長過程では、私たちの「混み合った時代」と違って、一人ひとりに対する愛情や、投資がこれまでより大きく丁寧に出来るはずで。原点に戻って、人間を大事にしよう。そこから、もう一度日本の元氣を取り戻すことが、国作りの基本だと、孫の写真を見ながら言い聞かせています。

